

「Y S C C 有観客試合初の休日開催」

2020年7月19日（日）J3リーグ第5節 Y.S.C.C. VS アスルクラロ沼津
ニッパツ三ツ沢競技場 17:00 KO 観客 624名 天候曇り



↑右手にハンディ検温計

↑無人のバックスタンド

↑試合終了後全員マスクでの記念撮影

(窓ガラスに応援メッセージが)

※今回の活動内容はコロナウイルス感染前と大きく異なり、昨シーズンまでとの比較もできませんのであらかじめご承知おきください

1、「38度の熱があります」

Y S C Cにとって先週水曜日の八戸戦に続いて2試合目の有観客試合。ボランティアを募集しての試合も2試合目。私にとってはJ1の開幕戦以来で、日産スタジアムでの活動が休止中で同じ横浜市内で試合が行われるY S C Cで今回活動をさせていただきました。

ADカードを取りに行くはず検温チェックを受けいきなり「38度です」と言われびっくりしました。このハンディ体温計は画面に顔以外が移ると、地面などそちらの温度が検温されてしまい、数分後に「再検温」してようやくADカードを受け取り、ボランティア控室に入りました。

2、KO3時間前に集合

KO3時間前の14時に集合、配置はすでに決まっていて関係者受付、総合案内所窓口、メインゲート、ゴール裏ゲートに各2名、計8名での活動です。ボランティア担当社員のBさんから検温を中心に説明を受けました。各ポジションに社員がいるので、その方から業務の詳細を伺い一緒に活動するという流れです。KO3時間前と集合時間がJクラブ中最

も遅いのではないのでしょうか？

3、ひたすらハンディ体温計で検温

私はメインゲートでもう1名のボランティアの方、2名のクラブ社員（ふだんはスクールのコーチ）と一緒に組むことになりました。私が入場前で検温をして、社員が手荷物検査と無線対応、もう一人のボランティアの方がアルコール消毒スプレーを両手にかかるという順番でのお客様対応で、階段を昇った場所で警備会社のスタッフがもぎりをするという流れです。ハンディ体温計の操作も、フェイスシールドを使うのも初めてでした。

ハンディ体温計はおでこに焦点を当てないと「いい記録」が出ません。そのため長髪のお客様はご自身でおでこの髪の毛を押さえて「いい記録」が出るようにしていただきました。また今回使用したハンディ体温計はピストルのような形状で、順番にピストルを撃っているかのような変な感覚でした。活動業務はとてもシンプルで、お客様からの問い合わせは隣りに社員がいて対応してくれるため、難しいことは全くありませんでした。

4、非日常的なスタジアムで

メインゲートにいてもコロナウイルス感染前と明らかに違う光景も目にいたしました。サポーターの声援は全く聞こえず、スタジアムDJの声だけが聞こえ、周囲に選手の幟り旗がなければ、ここでサッカーの試合をしていることもわからないほどです。Y S C Cに限らずですが、アウェイサポーターの入場は禁止されていて、警備員が沼津サポーターに着替えてもらうように言っていた場面もありました。当然ですが、サッカーは相手チームがいなければ試合として成立しませんが、相手チームのサポーターがいない（入場できない）のは何と味気ないことなのかと痛感させられました。

当日の観衆は600名余りで通りすがりの方に「当日券の販売はありません」とお答えしなければならぬ状況なのも初めてのことでした。またKO直前ミーティングでの監督、選手の掛声もよく聞こえてしまいました。こちらも換気で窓を開けなければならぬため聞こえてしまっているとのことでした。

5、控室に選手が挨拶に来られ解散、

KO後は交代でスタンドで観戦しながら休憩、食事です。当日はメインゲートとホームゴール裏のみを開放し、観客席の4席中3席はビニールテープが貼られ着席できないようにしていました。（前日は横浜FCのホームだったので、昨日のままの状態だったと思います。）試合終了後はお客様のお見送り、ボランティア控室に戻り終礼後には尾身選手が「皆さんのおかげで試合が行われ、勝ち点3も得ることができました。」と挨拶があり、記念撮影して解散となり、梅雨空の三ツ沢の丘を下り帰宅いたしました。

6、「ありがとう Jリーグ、一緒なら乗り越えられる」

場内はニッパツ三ツ沢競技場のバックスタンドにほぼ平行して、5月に移転されたばかりの横浜市民病院の窓ガラスには「ありがとう Jリーグ、一緒なら乗り越えられる」というメッセージが貼られていました。→翌週の横浜FC戦ではこのメッセージは貼られていませんでした。

今年のJリーグは東京オリンピック・パラリンピックで横浜F・マリノスの三ツ沢開催が多い予定でしたが、コロナウイルスの影響で超過密日程になっています。このメッセージが選手、来場者にも届き、一日も早くコロナウイルスが終息して、再び「日常の」スタジアムが戻れますように祈願いたします。